

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金の大切さ

川南町立唐瀬原中学校

三年 河野 咲希

私が税についての作文を書こうと思った理由は、私は税とは何か考えたとき、消費税しか思いつきませんでした。そして、税について調べてみたところ、およそ五十種類の税金があることを知り、興味が湧いたからです。

税金には、消費税、所得税、住民税など名前だけ知っていたり、自動車税、相続税、印紙税など初めて聞いた税金もありました。大きくまとめると、どこに納めるかによる「国税」と「地方税」、誰が納めるかによる「直接税」と「間接税」があります。私の一番身近で使われている税金は、教科書や教室にあるパソコン、実験用具や体育用具などだそうです。学校で使われる税金はどこから来るのかというと、買い物をしたときに払う消費税、仕事をしている人たちのお給料から払う所得税、会社がもうけた利益から払う法人税などがあり、その税金を国が集めて学校で必要なものを買うときに使われているそうです。これを「教育費」といいます。その他にも社会保障という、病院に行ったときにかかるお金の一部や、働けなくなった人をサポートするお金もあります。私は、学校にある机や椅子、体育用具など当たり前にあると思うものは税金が使われていることを知り、税金を払うことの大切さを知りました。

もし、税金がなかったら、道路や橋を修理するお金がないので、壊れたまま放置されてしまったり、警察官を出動させるのもお金がかかり、緊急事態に対応できなくなったりしてしまいます。さらに、教育のための費用を子どもたちの家族などが負担しないといけなくなり、年をとって働けなくなり、身体がうまく動かせなくなったとき、安心して生活することが難しくなってしまうです。実際に東日本大震災でも、多くの税金が使われました。しかし、税金があったから多くの人々が救われました。震災だけでなく他の災害が発生したときに、被災地の復興や、避難してきた人への食料のほとんどに税金が使われていると知り、税金を払っている方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

私もこれから大人になっていく中で、税金を払わないといけない場面が増えると思います。しかし、税金はこれからの日本にも絶対に必要だと思うのでしっかり払い、社会に貢献したいと思います。